

はまかせ記者がみなと舎の扉を叩く!



みなと舎物語

第7回 ケアホームはなえみ・ケアホームはなあかりを訪問

重症心身障害児者と愉快な仲間たち

みなと舎の施設利用者である重症心身障害児者(メンバーさん)と、みなと舎で働くスタッフや、ご家族、地域の方々など愉快な仲間たちとのストーリーを毎月ご紹介するコーナー。第7回はケアホームに、お邪魔しました。

障害が重い人のグループホームは無い!

グループホームとは、障害者や高齢者が少人数で生活する住居のこと。障害の軽い方が暮らすための施設。それがグループホームの常識でした。

無いなら作ろう!

障害の重い人でも、「家」に近い環境で生活を…。通所施設に通うご家族の要望もあり、「無いなら作る」からスタートした。横須賀市にも掛けあい、いろんな人の協力でみなと舎のグループホームが2003年に完成した。全国的にも珍しく、全国から視察が訪れた。



メンバーさんとスタッフの皆さん

どんなところ?

大楠山の登山口を入ってすぐ。「はなえみ」「はなあかり」各所4名、合わせて8名。ずっとご家族と一緒に暮らしていたメンバーさんが、親元から離れた一人部屋で生活する。普通のお家のような玄関に広々としたリビング。オール電化でお風呂も広い。約7畳の個室ではメンバーさんの好みのカーテンや家具、小物などで思い思いのインテリアを楽しんでいる。スタッフは2、4人体制でのべ30人が担当。食事はスタッフの手作りで、野菜中心のバランスの良い食事を提供している。

医療的ケア

ここでは経管栄養注入、痰の吸引などの医療的ケアが必要な方も暮らしている。スタッフは痰の吸引ができる検定を全員が取得。日々体調の変化を全員が把握している。

メンバーさんは?

長年メンバーさんを見守る管理者の中田光子さんは「メンバーさんは言葉で会話ができない方ばかりですが、通所施設

ケアホームはなあかり



みなと舎

検索

で過ごす時、ここにいる時、家族と自宅にいる時をきちんと使い分けていますよ。」と話す。通所施設では、時間の中で、他のメンバーさんと行動を共にする機会が多く、ここでは、通所施設とは違うリラックスクラスした雰囲気。自宅に戻った時は、また違った顔を見せているのだから。

★次回12/9号「メンバーさんの人生と人生支援」

「親から離れて

生きていこうってホント?

「ソフナー!

グループホームのくらし

♪ルンルン♪

